

		自己評価		学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価指標による達成度	学校関係者の意見	
リーディング ハイスクール 事業の推進 ①中高一貫 教育の推進	(全校レベル) 中高それぞれが相 乗効果を生み出し、本校の活性化 に役立てる。	評価指標 「中学生は高校生を模範として、よりよい学 校生活を送ろうとしている。」と答えた生徒・ 保護者・教職員が60%以上。 「中学生と高校生の関係は良好である。」と 答えた生徒が60%以上。	評価指標による達成度 「中学生は高校生を模範として、よりよい生活を送 ろうとしている」と答えた生徒60%(±0)、保護者 77%(+2)、教職員77%(+23) 「中高生の関係は良好である」と答えた生徒75% (-5)	総合評価  B  (所見) すべての項目で評価指標 は上回っている。概ね良 好な状況にあるが、「高校 生を模範としている」とい う生徒のポイントが上がら ず、「中高生の関係が良 好」で下がるなど、7限授 業や行事の精選が進む 中で、中高生がともに過 ごす時間がやや減少して いる影響も見える。	中高一貫教育推進の評価 指標として「中学校は高校生 を模範としてよりよい生活を送 ろうとしている」という問い は、保護者には実情を捉え にくいかもしれないので、こ の数値は期待値と見ることも できる。 部活動を中高合同で行うこ とは、体力や技術面で目標と なる高校生の存在を最も強く 感じられる機会であり、中高 一貫教育の効果を実感しや すい。 勉強や進路についても、個 人のレベルで教えたり、情報 交換をしたりできるようにな ればよりよい。
	(下位組織レベル) 中高生の関係は 良好である。	活動計画 ①中高の職員が、共通理解を図れるように 協議、研修の場を持つ。 ②城ノ内祭等の行事を中高合同で開催す る。 ③吉野川堤防清掃、防火訓練などに中高 合同で取り組む。 ④一部の部活動で中高合同の練習を行 う。	活動計画の実施状況 ①中高合同の職員会及び人権教育、コンプライア ンス、特別支援教育などの研修会をもった。 ②文化祭、体育祭を中高合同で開催した。 ③吉野川堤防清掃作業を中高合同で3回実施し た。 ④弓道部、演劇部、美術部、書道部など8部で合 同練習を行った。		
リーディング ハイスクール 事業の推進 ②確かな学 力と進路観の 育成	(全校レベル) 授業の充実改善に 積極的に取り組 み、きめ細かな進 路指導を行う。	評価指標 「教員は生徒の学力を伸ばす教育を行って いる」と答えた生徒・保護者・教職員が7 0%以上。 「教員はわかる授業を目指して取り組んで いる」と答えた保護者・教職員が70%以 上。	評価指標による達成度 「教員は生徒の学力を伸ばす教育を行っている」 と答えた生徒88%(-1)、保護者84%(-2)、教職員 100%(+7) 「教員はわかる授業を目指して取り組んでいる」と 答えた保護者85%(+2)、教職員95%(-2)	総合評価  A  (所見) すべての項目で、評価指 標を大きく上回っている。 良好な評価であり、リー ディングハイスクールの指 定を受けて、学力伸長に ついて、全教職員、生徒 がさらに意欲的に取組を 進めていることが伺える。 また、各種検定、外部講 師を活用した取組も成果 を挙げている。しかしなが ら、生徒、保護者教員評 価の評価に差がみられる 項目もあり、さらに「個」に 応じての指導体制が求め られている。	外部講師をうまく使った活 動ができているようであるの で、効果的であったよい講師 を選んで継続する。  授業数が増えて、生徒は大 変かもしれないが、規則正し い生活をさせて、家庭で朝食 をしっかりとらせてほしい。
	(下位組織レベル) 研究授業・授業研 究会の実施。  各種検定への参 加。  外部講師を活用し た授業の実施。	「各種検定は学習の励みになる」と答えた 生徒・保護者が70%以上。 外部講師を活用した授業を年間5回以上 実施する。	「各種検定は学習の励みになる」と答えた生徒7 9%(-7)、保護者92%(+1) 外部講師を活用した授業年間14回  活動計画の実施状況 ①中高合同での研究授業・授業研究会を年7回実 施した。 ②授業評価を、年間2回実施した。 ③漢字検定(1回)、数学検定(2回)、英語検定(2 回)を実施し、ほぼ全員がいずれかの検定を受検 した。 ④総合的な学習の時間、体育科、音楽科、社会 科、英語科などで外部講師を活用した授業を実施 した。		

		自己評価		学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策	
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価指標による達成度	学校関係者の意見		
人権教育の推進	(全校レベル) 全ての教育活動で人権教育の推進を図る。	評価指標 「すべての教育活動の中で人権に配慮した指導が行われている」と答えた生徒・保護者・教職員が70%以上	評価指標による達成度 「すべての教育活動の中で人権に配慮した指導が行われている」と答えた生徒88%(+3)、保護者85%(+1)、教職員86%(+3)	総合評価  A  (所見) すべての項目で評価指標を上回っている。概ね良好な評価で、「すべての教育活動の中で人権に配慮した指導が行われている」の項目では、わずかではあるが生徒、保護者、教職員のすべてで評価が上がった。しかしながら、他のアンケートでは自己肯定感の低い生徒が学年が上がるにつれて多くなる傾向が見られる。また、メールやSNSを介しての人権侵害等にも注意が必要な状況にある。	「自己肯定感が低い」とあるが、中学校の特徴として考えられることである。学校も市人権のテーマとして「自分も他も大切に」と設定しているそうだが、家庭の中でも他と比較したりするようなことがあり、子供たちに影響しているかもしれない。家庭との連携も大切だ。  年2回アンケートでいじめの早期発見に努めているということだが、毎日の様子の観察や教員間の情報交換を密にして取り組むべきである。	①道徳、人権学習の時間を担保し、年間計画に沿って、人権教育を含む、豊かな心を育てる教育実践を進める。  ②すべての教育活動の中で、学年ごとに設定している取組キーワードをもとに、3年間の変容を意識した継続的な学習に繋げる。  ③引き続き毎学期アンケートや生徒の観察に努め、いじめやトラブルの早期発見と対応に取り組む。
	(下位組織レベル) 学級活動や学校行事の充実を図る。	活動計画 ①人権問題についての研究授業、事前研究会を実施する。 ②人権問題意見発表会を実施する。 ③人権に関する講演会等を実施する。 ④職員研修を充実する。 ⑤学校生活に関するアンケート調査を、年2回を実施する。	活動計画の実施状況 ①各学年で研究授業を実施し、事前・事後の研究会を実施した。 ②人権教育意見発表会を実施した。 ③1年生・2年生・3年生ともに、外部から講師を招き人権問題講演会を実施した。 ④中高合同の職員研修会を2回、地域研修会を1回実施した。 ⑤学校生活での悩み等について、アンケート調査を学期に1回実施し、生徒理解やいじめ等の問題の早期発見に努めた。			
基本的な生活習慣の確立と道徳性の涵養	(全校レベル) 学校は家庭と連携し、生徒の基本的な生活習慣の確立を図る。	評価指標 「学校は家庭と連携し、生徒の基本的な生活習慣の確立に努めている」と答えた保護者・教職員が70%以上。	評価指標による達成度 「学校は家庭と連携し、生徒の基本的な生活習慣の確立に努めている」と答えた保護者80%(+3)、教職員100%(+5)	総合評価  B  (所見) 「生徒は挨拶ができています」と答えた生徒、保護者、教員の割合に差があり、教員は評価指標を下回っている。どこでも、だれにでも気持ちのよいあいさつすることに教員はまだまだ不十分ととらえていて、生徒の認識と差がある。また、「服装などについて校則が守られている」と答えた教員の割合が下がっており、今年度常時服装等で指導が必要な生徒が一部いた実態が反映しているようだ。	近隣で自転車を待たせると「すみません」とあいさつしてくれるのを聞いてうれしい気分になった。挨拶はすべての基本であり、大切な社会のスキル、品格をかたちづくるもののひとつである。引き続き指導を続ける。  ①あいさつの大切さについてあらゆる機会を捉えて指導する。  ②服装・頭髪等の指導について、全教員が共通認識を持って、徹底してあたる。特に、生徒指導課を中心として、学年間での連携をとった指導ができるようにする。  ③規律ある行動や時間の遵守(授業開始2分前着席など)について、代議委員会、生活委員会、交通委員会など生徒の自主的な活動がより活性化するように、教員自身が率先し、支援・指導していく。	
	(下位組織レベル) 「挨拶の励行」の徹底。 「城ノ内生としての自覚ある行動」の推進 「時間厳守」の徹底。 「服装頭髪」指導の徹底。	活動計画 ①あいさつ運動の実施。 ②校内外でのマナーの指導をする。 ③始業前着席の励行。 ④服装頭髪検査を定期的に実施する。	活動計画の実施状況 ①毎朝の教職員、生徒会役員・生活委員及び生徒有志によるあいさつ運動を実施した。 ②毎朝交通委員による駐輪場の整理整頓を実施した。各行事を通じて社会マナーについて話をした。 ③教員が授業場所に始業前に行き、生活委員が2分前着席を呼びかけた。 ④日常的に、また学年等の集会時の服装頭髪について指導した。			

		自己評価		学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価指標による達成度	学校関係者の意見	
防災・安全教育の徹底	(全校レベル) 防災・安全教育を徹底し、災害備えとともに、事故防止に努める。	評価指標 「学校は防災意識の高揚に努めるとともに、防災への取組を推進している」と答えた生徒・保護者・教職員が70%以上。	評価指標による達成度 「学校は防災意識の高揚に努めるとともに、防災への取組を推進している」と答えた生徒85%(+3)、保護者89%(+5)、教職員95%(+12)	総合評価  B  (所見) すべての項目で評価指標は上回っているが、「交通ルールや交通マナーが守られている」と答えた生徒と教員の差が大きい。教員の肯定的な答えもかなり増え、改善が進んでいることがうかがえるが、並進等で注意を受けることや、車との接触なども多い実態があり、引き続き指導が必要である。	雨天時にカッパを着て、傘差し運転の自転車が減っているように見受けられるのはうれしい。ただ、本校生の通学路で自転車で道いっばい広がっている箇所もある。引き続き指導が必要だ。
	(下位組織レベル) 防災意識の高揚に努め、防災への取組を推進する。	「交通ルールや交通マナーが守られている」と答えた生徒・教職員が70%以上。	「交通ルールや交通マナーが守られている」と答えた生徒93%(+39)、教職員76%(+24)		
	交通ルールや交通マナーを守る。	活動計画 ①防災避難訓練(火災・地震・津波)を年2回実施する。 ②毎月1回交通マナーアップ運動を実施する。 ③交通安全教室を実施し、安全教育の徹底を図る。	活動計画の実施状況 ①防災避難訓練(火災・地震・津波)を2回実施し、Jアラートによる初期退避行動訓練を2回実施した。 ②交通安全教室を実施した。学校安全の日にあわせて交通マナーアップ運動を行った。また、PTA校外指導部が朝の立哨指導を実施した。		
環境教育の推進	(全校レベル) 環境教育への取組を推進し、地域の環境美化にも貢献する。	評価指標 「清掃に積極的に取り組み、美しい環境が維持できている」と答えた生徒・教職員が70%以上。	評価指標による達成度 「清掃に積極的に取り組み、美しい環境が維持できている」と答えた生徒84%(+5)、教職員95%(+14)	総合評価  A  (所見) すべての項目で評価指標を上回っている。清掃活動や環境保全に熱心に取り組んでいることが伺える。	①平成28年度より更新する新学校版環境ISOの取組に沿って、ゴミの分別、節電、節水、リサイクル活動を進める。  ②毎日の清掃活動に自主的に、積極的に取り組めるように、引き続き指導監督する。
	(下位組織レベル)	「ゴミの分別や節電・節水に取り組んでいる」と答えた生徒・教職員が70%以上。	【ゴミの分別や節電・節水に取り組んでいる」と答えた生徒78%(+2)・教職員86%(+2)		
		活動計画 ①毎日の清掃活動を充実させる。 ②日常的に節電、節水に努める。 ③吉野川堤防清掃活動や学校周辺の清掃活動に、年3回以上取り組む。	活動計画の実施状況 ①毎日の清掃時の生徒管理を適切に行った。  ②吉野川堤防清掃活動を、中高合同で3回実施他した。(7・10・12月)		
特別活動の活性化	(全校レベル) 学校行事を充実させ、学校全体を活性化化する。	評価指標 「学校行事は充実しており、生徒が生き生きと取り組んでいる」と答えた生徒・保護者・教職員が70%以上。	評価指標による達成度 「学校行事は充実しており、生徒が生き生きと取り組んでいる」と答えた生徒92%(±0)、保護者93%(+1)、教職員95%(±0)	総合評価  A  (所見) 全ての指標で目標を上回っている。特色ある学校行事、部活動、生徒会活動等に熱心に取り組んでいる。特に、部活については、週33時間授業で活動時間に制限がある中、効率よく実施された。	①各行事について、実施方法、内容等について見直しを図り、より効率的・効果的に実施できるようにする。  ②行事の際の生徒の自主的な参画について、高校とも連携し、生徒会、委員会活動を中心に更に強く推進する。  ③部活動の時間が減る中で、集中して練習に取り組めるように放課後の時間、また練習場所について調整、工夫をする。
	(下位組織レベル) 学校行事の内容の充実を図る。	「部活動は活発である」と答えた生徒・保護者・教職員が70%以上。	「部活動は活発である」と答えた生徒88%(+3)、保護者82%(+1)、教職員76%(+8)		
	生徒会・専門委員会活動の充実を図る。	「生徒会・専門委員会は活発に活動している」と答えた生徒・保護者・教職員が70%以上。	「生徒会・専門委員会活動は活発に活動している」と答えた生徒88%(+5)、教職員81%(+12)		
		活動計画 ①学校行事の内容を充実させる。 ②部活動を活性化する。  ②生徒会・専門委員会活動を活性化する。	活動計画の実施状況 ①部活動加入率は1年 93%、2年 95%、3年 79%。(4月末現在)  ②生徒会執行部が中心となり、各専門委員会がそれぞれの役割を計画的に実施し、充実した活動を行った。		

		自己評価		学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価指標による達成度	学校関係者の意見	
開かれた学校づくりの推進	(全校レベル) ホームページの充実や学校公開の日を実施する。	評価指標 「ホームページは本校を理解してもらうのに役立っている」と答えた保護者が70%以上。	評価指標による達成度 「ホームページは本校を理解してもらうのに役立っている」と答えた保護者89%(-1)	総合評価  A  (所見) 全ての項目で評価指標を大きく上回っている。保護者や地域の高い関心と支援のおかげで、開かれた学校作りが推進されている。特に、ホームページについては、行事等即日アップやお知らせのHPでの周知について理解協力ができているようである。しかしながら、文化祭、学校公開については、駐車場が用意できなかったことが、来校者数にやや影響しているように思われる。	高校への希望者を増やすことが課題であると思われるので、中学生向けの説明会をさらに工夫していくことが大切だ。現在、城ノ内中学校の他の中学校から入学している生徒に体験談などを入れていくとよいだろう。
	(下位組織レベル) ホームページの更新回数を増やす。  「学校公開の日」の実施。  城ノ内祭の公開。	評価指標 ホームページの更新に全ての教員が関わり、少なくとも週に1度は更新されるようにする。  「学校公開の日は本校を理解してもらうのに効果的である」と答えた保護者が70%以上。  「文化祭の公開は本校を理解してもらうのに役立っている」と答えた生徒・保護者・教職員が70%以上。	評価指標による達成度 多くの教員がホームページを更新し、学校全体として、平均週2回以上程度は更新することができた。  「学校公開の日は本校を理解してもらうのに効果的である」と答えた保護者93%(-1)、教職員100%(+10)  「文化祭の公開は本校を理解してもらうのに役立っている」と答えた生徒93%(+1)、保護者95%(+1)、教職員100%(+12)		
		活動計画 ①ホームページを随時更新する。  ②「学校公開の日」を実施する。  ③文化祭を公開する。  ④スクールガイドの発行。	活動計画の実施状況 ①ホームページへの年間アクセス数は587,445回(昨年比39%増)、総アクセス数は2,242,304回(2004.10.20～2015.2.5)  ②学校公開の日への参加者555名。  ③文化祭を公開し、1689名が来校した。  ④スクールガイドを発行した。		①ホームページの更新について、引き続き、迅速かつ内容充実にも努める。特に、各教科の授業の様子や日常的な教育活動について、全教職員が意識して取り組む。  ②学校公開の日や文化祭等の機会を捉え、来校いただいた方々に本校の魅力を十分伝えられるように、アンケート等の意見を活用し、内容を見直し改善を図る。駐車場等どうしてもご理解いただかなければいけない点について、更にご協力をお願いする。
学校運営体制の充実	(全校レベル) 月例運営委員会や職員会議を活性化させるとともにPTA活動の充実を図る。	評価指標 「学校生活や学校の教育活動全般に満足している」と答えた生徒・保護者が70%以上。	評価指標による達成度 「学校生活や学校の教育活動全般に満足している」と答えた生徒89%(-1)・保護者89%(-1)。	総合評価  A  (所見) すべての項目で評価指標を大きく上回っている。中高合同の運営委員会、中学校の職員会も定期的な、また必要に応じて追加で開催され、必要事項を協議できている。PTA活動についても、合同役員会の他、中学校PTA役員会、また各専門部会での会合も年2回以上開催された。中高合同の組織は規模が大きくなるので、下部組織の連携が重要になる。	中学校と高等学校は教室や職員執務室が物理的に離れているので、意図的に連携をとるようにしていかなければいけない。  学校評価の時期がアンケートが12月、評価委員会が3月中旬ということで、高校の進学実績などがまだ出そろっていない。全体的に年度末に評価をして、来年度の学校目標に入れ込んでいくことが必要である。
	(下位組織レベル) 月例運営委員会で学校生活や教育活動全般を点検するとともに各学年、各課などにおいて課題解決を図る。	評価指標 「勉強・部活動・学校行事など豊かな教育活動が行われている」と答えた生徒・保護者が70%以上。  「PTA活動や学年部会は活発である」と答えた保護者・教職員が70%以上。	評価指標による達成度 「勉強・部活動・学校行事など豊かな教育活動が行われている」と答えた生徒97%(±0)・保護者97%(+1)。  「PTA活動や学年部会は活発である」と答えた保護者88%(-1)・教職員100%(+5)。		
		活動計画 ①運営委員会を毎月1回開催する。  ②定期的に中学職員会や学年部会を開催する。  ③中高合同PTA役員会を年4回開催し課題解決に取り組む。	活動計画の実施状況 ①中高合同の運営委員会を毎月1回実施し、各課題について協議した。(年12回開催)  ②毎月1回、中学職員会を実施し、職員共通理解を図った。また、学年会を随時開催した。  ③中高合同PTA役員会が4回開催され、活発な議論がなされた。また、中学校PTA役員会も3回実施し、PTA組織の活性化等が話合われた。		①運営委員会での協議をさらに活発化して、決定事項を各学年、校務分掌で、確実に共有し、連携できるようにする。  ②職員会で意見をしっかりと出し合って、計画的かつ効果的な学校運営に努めるとともに、学校が風通しの良い職場となるようにする。  ③充実したPTA活動を基に、保護者の理解・協力・連携をいただきながら、生徒の学習生活環境の整備を進める。